

Fetal Akinesia Deformation Sequence (FADS) の表現型を呈した 先天性サイトメガロウイルス感染症の 1 例

川野 裕康^{1),2)} 太田 栄治^{1),2)} 音田 泰裕^{1),2)}
新居見俊和^{1),2)} 伊東 和俊^{1),2)} 佐々木聡子^{1),2)}
宮本 辰樹^{1),2)} 瀬戸上貴資^{1),2)} 中村 公紀^{1),2)}
廣瀬 伸一^{1),2)}

¹⁾ 福岡大学病院総合周産期母子医療センター 新生児部門

²⁾ 福岡大学医学部 小児科

要旨：先天性サイトメガロウイルス感染症 (CCMVI) は、胎内感染症で最も頻度が高い疾患であり、重症例では小頭症や頭蓋内石灰化、脈絡網膜炎、肝脾腫、点状出血斑などの症状がみられる。症例は、妊娠 24 週に胎児超音波検査で小頭症と側脳室拡大、四肢関節の拘縮、妊娠 25 週に母体血でサイトメガロウイルス抗体価の上昇を指摘された。骨盤位であったため、在胎 37 週 0 日に選択的帝王切開術となった。児は、出生体重 1742g で、CCMVI に非典型的な症状である顔貌異常や多発性関節拘縮がみられた。しかし、頭部 CT 検査で脳回形成不全と脳室周囲の石灰化病変を認め、尿中 CMV-PCR が陽性であったことから CCMVI と確定診断した。胎児無動変形シーケンス (FADS) の表現型を呈する CCMVI の報告は稀であるが、FADS の原因の一つとして、CCMVI を念頭に置く必要があることが示唆された。

キーワード：母子感染症、胎児発育不全、胎児無動変形シーケンス、サイトメガロウイルス、ジカウイルス